

▶ 勉強会・はるかぜスクールを開催しました。

大前はるよ事務所では、この2～3月の間、議員インターンシップとして大学生4人を受け入れ、3月末に不定期で開催している勉強会「はるかぜスクール」の番外編を開催しました。インターン生からは活動発表を、私からは西宮市内でよく聞かれる話題についてお話ししました。

取り上げたのは、「**政務活動費について**」と、「**アサヒビール跡地についてのこれまでの経緯と今後の計画**」についてです。

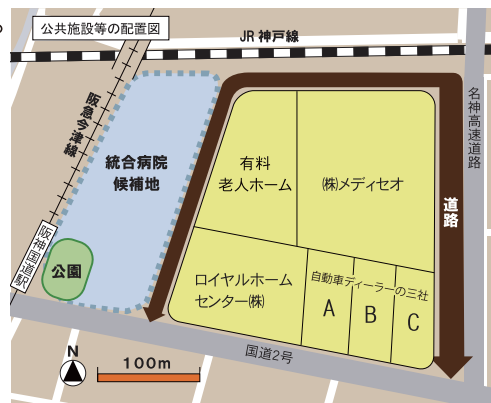
アサヒビールの跡地は現在右図のような予定となっています。統合病院予定地については、市の外郭団体が購入していますが、5年以内に県立西宮病院と市立中央西宮病院の統合が決まらなければ返還するという条件付きとなっています。

この話題については、平成29年2月、両病院のあり方検討会で「統合して新しい病院を建てるのが望

ましい」という結論が出され、大きく前進しました。

前回ははるかぜ通信(vol.12 および vol.12.1※)でも申し上げた通り、私も**統合そのものについては賛成の立場ではありませんが、公立病院の統合は、地域医療の在り方に大きな影響を与えます。**先行事例をみながら市政、県政で**是々非々で議論を行うことが重要と**考え、将来に向けて良い成果を生み出せるように努めてまいります。

※vol.12.1はvol.12に最新情報を加筆し街頭で配布したものです。過去のはるかぜ通信は大前はるよのホームページでご覧いただけます。



▶ 姫路の認定こども園問題と待機児童問題について

この春は姫路市の認定こども園(4月1日認定取消)の不正事案が大きな話題となりました。現在、調査をすすめながら、不正が起こらないように、監査の方法や頻度の見直しなどが検討されています。当然ながら、保育に関わる方々のほとんどが子供のことを一番に考えられ運営されている中で、こういった事案が起こることで**監査の強化や認可の厳格化などによって、真面目に頑張っている方々の負担が重くなることは非常に残念**に思います。

根本的な問題は運営者のモラルにあることは言うまでもありませんが、**その背景に待機児童問題**があるということも見逃せない点です。兵庫県では(平成28年4月

時点で、前年を超える)1000人以上の待機児童がいます。西宮市でも平成28年までの10年間で2300人の定員増を実現し、待機児童を急速に減らしましたが、算定方法の見直しがあったこともあり、需要の高まりに供給が追いついていません。(姫路市は平成28年4月時点で46人)

保育の質の担保を図りながら、待機児童の解消を実現することは喫緊の課題です。地域の見守りや、相談機能、コミュニティづくりなど、様々な角度から子育てを支援していけるように今後も努めてまいります。



▶ 議員インターンシップとは?

→NPO 法人ドットジェイピーという学生団体がやっている大学生の研修制度。

大学生が地方議員、国会議員などのもとで秘書のように議員の行く先々に同行したり、一緒に政策の調査研究などを行うものです。研修期間は、大学の長期休暇と重なる2ヶ月間です。参加する学生のほとんどは政治家志望ではありませんが、議員の普段の活動や、社会課題について学ぶことで、暮らしを支える地域活動や政治の役割を知り、生き方を考える機会となるなど体験型のキャリア教育活動となっています。また、議員側にとっても学生から刺激を受ける政治家育成的な側面もあります。



学生と議長、副議長との意見交換会に参加。



他の県会議員を交えて意見交換。



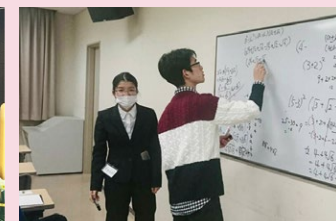
インターン活動発表



刑事裁判の傍聴



朝の街頭活動



無料塾でのボランティア講師